

令和 6 年（2024 年）1 月
北海道サッカー協会
審判委員会育成部 靱山 智哉

JFA第47回全日本U-12サッカー選手権大会 審判インストラクター報告

1 【概要】

大会期間：2023年12月26日（火）～29日（金）

開催地：鹿児島県鹿児島市内3会場11ピッチ

北海道派遣審判員：猪股 陽茉梨 氏、宮野 龍之介 氏、加藤 和馬 氏

参加者：審判員（32名）、地域インストラクター（16名）、JFAインストラクター（11名）、九州FA・鹿児島FA（2名）

日程および内容：

日にち	内容	備考
11月15日	第1回事前研修	資料番号① 研修方法：Zoom
11月29日	第2回事前研修	資料番号① 研修方法：Zoom
12月13日	北海道ユース審判員研修	資料番号② 研修方法：Zoom
12月18日	第3回事前研修	資料番号① 研修方法：Zoom
12月25日	前日研修	資料番号③ 研修方法：対面
12月26日	競技（1次ラウンド） 研修会	資料番号④
12月27日	競技 （1次ラウンド／1次ラウンド交流戦／ラウンド16） 研修会	同上
12月28日	競技（フレンドリーカップ／準々決勝／準決勝）	同上
12月29日	競技（決勝）	

2 【事前研修報告】－（資料番号①）

日時	研修名	内容	備考
11月15日 20：00～	事前研修①	・大会概要説明 ・グループ討議	主催：JFA審判委員会 （進行：高橋武良 氏） 討議内容

		(※北海道チーム内) ・大会までおよび大会期間中の日程確認 ・競技場説明 ・SNS利用に関する注意喚起 ・緊急連絡手段 ・次回研修までの宿題 (対象：審判員)	・自己紹介 ・大会での目標 ・移動手段の共有 宿題内容 ・競技規則テスト(google Form) ・大会レギュレーションの確認 ・1人制審判教材(JFA) ・大会映像確認(JFA)
11月29日 20:00～	事前研修②	・参加者からの質疑応答 ・事前研修①での宿題の共有 ・コンディション調整について ・SNS利用に関する注意喚起 ・グループ討議① (地域Ins. 4名／1組) ・グループ討議② (地域Ins. 4名／1組) ・最後に(名木利幸 氏より)	主催：J F A 審判委員会 (進行：高橋武良 氏) 討議内容① ・自己紹介 ・U-12試合映像分析 (11人制との違い／戦術／得点機会の特徴／ベンチの様子／レフェリーのPs等) 討議内容② ・Ins. として審判員に何ができるか、どのような準備が必要か ・スケジュール管理 ・オンザピッチ／オフザピッチの行動について ・イエローカードよりもグリーンカードが多い試合を ・美しいシグナルを ・U-12の試合を多く見る
12月18日 20:00～	事前研修③	・大会に向けて大会に関わるという意味 (審判員／Ins. それぞれの立場) ・SNSの利用に関する注意喚起	主催：J F A 審判委員会 (進行：高橋武良 氏)

		・ 3つのキーワードの提起	①時間の意識 (キックオフ時間、プレーイングタイムの確保、スケジュール確認) ②気づき (ピッチ上の情報の大切さ、ピッチ上のリーダーになる、チームでの役割を意識) ③チャレンジ精神 (見る→判断→アクション) (未知のことへのチャレンジも)
		・ グループ討議① (地域Ins. 4名／1組)	討議内容① ・ 審判員が後半に試合にマッチするよう、パフォーマンスを引き出すための留意点
		・ グループ討議② (地域Ins. 4名／1組)	討議内容② ・ 審判員が試合終了後に、次の試合に向けてパフォーマンスを発揮するための具体的方法について
		・ 審判員に求める3つの観点	①動き (最後まで動き切る、遅れてもいいから近づく、よい角度を) ②進行 (競技規則に従った進行を、開始→再開→終了まで) ③姿勢 (競技者がプレーを続けようとする姿勢の保障、競技者のために全力を出す、選手・チームのための大会作りを)
		・ JAPAN'S WAY(JFA)の紹介	
		・ 指導者に向けての共有	・ 指導者としての大会参加への意識 (以下文章で記載)

2. 1 【事前研修報告詳細】

全3回の事前研修を踏まえて、《①ユース審判員への配慮が必要であること》・《②インストラクターとしての役割を正しく認識すること》・《③特にユース審判員に対するインストラクターとしての工夫の整理》、以上3点を確認することができた。

《①ユース審判員への配慮》に関しては、高校生であるユース審判員のレフェリングのみならず、大会参加にあたり、一人ひとりレフェリングに関する経験値（＝”現在地”）が異なり、また、移動や宿泊を伴う大会参加への経験値も異なる中、移動手段の確認や、審判員の不安へのヒアリングの必要性を感じた。

《②インストラクターとしての役割を正しく認識》に関しては、インストラクターとして、各大会は自身の経験や成長の場ではなく、自身が持っている経験や武器を使い果たす場であるということ。すなわち、審判員に対し、適切なアドバイス、レクチャーという様々な引き出しから適切に選び、伝え、即時に改善できるようにする。その積み重ねが大会成功へと繋がるという、インストラクターとしての「責任」を認識した。

《③特にユース審判員に対するインストラクターとしての工夫の整理》に関しては、一人ひとり”現在地”が異なるユース審判員に対し、各自に応じた適切なアドバイスが必要となること。そして、そのアドバイスが伝わらなければ意味がないということ。特にユース審判員として、今後の成長幅が大きいこの年代にとって、この経験は大変貴重であり、今後の各地域のトップレフェリー、そして、日本のトップレフェリーへ繋がっていく可能性がある存在ということで、我々地域インストラクターとしての役割は大変重要であると感じた。

この3点を踏まえ、大会前に北海道ユース審判員に対して、事前研修会を実施すること、そして、大会期間後には、本大会参加した北海道ユース審判員の今後の審判活動に生かすための整理また、次年度参加する、北海道ユース審判員への一助となるようにアンケートを実施した。その詳細に関しては以下に記載する。

3 【北海道ユース審判員研修会報告】－（資料番号②）

○本研修会の目的

本研修会を通し、審判技術や知識に対する自身のストロングポイントおよびウィークポイントの理解、また、大会参加に関する疑問や不安を明確化することで、本大会参加への準備を整える。

日にち	内容	備考
12月8日	事前アンケートの実施	googleFormで実施
12月13日 19:00～20:30	北海道ユース審判員研修会	研修方法：Zoom 企画・進行：靱山 智哉 講師： 二谷 翔夢 氏 高橋 陽斗 氏 (2023年度同大会審判員) オブザーバー： 古曾部 統太郎 氏 平石 暁史 氏 (HKFA審判委員会育成部)

	内容 ①（事前アンケートから） ・審判活動に関する疑問点／不安点の共有 ・大会参加に関わる疑問点／不安点の共有 ②昨年度の同大会試合映像（準決勝※Ref. 二谷氏）を見ての意見共有 ③映像分析（テクニカル） ・判定 ・マネジメント ・動き/ポジショニング ④講師による大会参加に対するアドバイス ⑤質疑応答	
1月5日	事後アンケートの実施	googleFormで実施

3. 1 【北海道ユース審判員研修会詳細】

上記、2. 1に記載のとおり、ユース審判員の一人ひとりの”現在地”が異なり、それは、全国から参加するユース審判員のみならず、北海道から参加する3名のユース審判員にも言えることであった。また、昨年北海道から参加した、2名の審判員（二谷 翔夢 氏、高橋 陽斗 氏 現 北海道強化指定審判員）の経験を一助にし、今回参加する3名の審判員、そしてインストラクターとして、本大会を自分達が成長していくための大きな経験、そして実りある大会にすべく、チーム北海道としての意識で、本研修会を実施した。

まずは、3名のユース審判員の”現在地”を把握するため、googleFormを用いてアンケートを実施した。質問項目は以下のとおりである。

	質問項目
①	今までの経験値（主審・副審・第4の審判員・1人制審判の回数の把握）
②	審判に関する自身のストロングポイント
③	審判に関する自身のウィークポイント
④	今回参加を決意した理由
⑤	今大会に関する審判に対する疑問点・不安点
⑥	今大会に関する審判以外に対する疑問点・不安点
⑦	2名の講師へ求めるアドバイス
⑧	本大会に対するチャレンジ内容

この8つの項目を共有することで、一人ひとり、また、チーム北海道としての”現在地”を認識し、さらに、講師からの助言のもと、大会へ向かうという意識が生まれたかと感じる。

映像分析では、昨年度の同大会での映像から、上記の3点に焦点を当て、ディスカッションを行った。審判員によっては、競技規則をほとんど理解していない審判員もあり、競技規則の適用は競技規則の理解を基本とする、という点が整理された。また、マネジメントのように、競技規則には具体的に記載されていない内容に対してもディスカッションをし、マネジメントの目的と、その目的に対して実際に審判員が行う手段の整理の意識付けを行った。

その後、昨年度本大会を経験した北海道の2名の講師による、アドバイスをさせていただくことで、北海道強化指定審判員までの道のりを1つのロールモデルとして3名の審判員に対して意識付けすることで、今後の北海道強化指定審判員の充実も狙いの一つであった。

本大会を経験し、3名それぞれの審判員が次のステップに繋げるため、その経験を整理するという意味でgoogleFormを用いてアンケートを行い、事後アンケートを実施した。質問項目は以下のとおりである。

	質問項目
①	本大会で感じた自身のストロングポイント
②	本大会で感じた自身のウィークポイント
③	本大会に参加する前後で変化した審判に対する想い
④	大会終了後に感じている審判に対する目標
⑤	本大会に参加してよかったと感じていますか？（5段階評価）
⑥	⑤の回答の理由
⑦	本大会のプログラム（JFA事前研修、北海道ユース審判員事前研修、大会期間中の研修）で印象に残っている事と、その理由
⑧	本大会参加前に行っておけばよかったと感じていること、また、行って欲しかった研修について
⑨	次年度以降の本大会参加ユース審判員へのアドバイス

上記の質問項目のうち、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨を以下に共有する。

	質問に対する回答
④	・Jリーグで笛を吹きたいです。 ・行く前にコミュニケーションをよく取ることを目標として参加しましたが言葉に詰まってしまう上手くコミュニケーションを取ることが出来なかったので今後もこの事を目標とし、改善していきたいです。 ・大学でも続けようと思う。

⑤	評価 5 : 2 名 評価 4 : 1 名 ※ 5 (非常に思う) - 1 (全く思わない)
⑥	・ 短期間でたくさんの試合の審判をできた事。 ・ 北海道の他の2人との交流も出来たのも含め、各都道府県の人たちとの交流が出来たのがよかったなと思いました。 ・ いつもとは違うインストラクターの方からの意見を聞いたこと。
⑦	・ 北海道審判員のための研修です。 …ジャッジに関する事を話せたからです。 ・ 試合中に起きた出来事やこんなことが起きたらどうすると、空き時間にやったことです。 …実際にこんなプレーがあったらということを自分たちで動いて確認したら文面などで見るよりも理解が深まってよかったからです。 ・ 自分のわからないことを聞いたこと。 …それを大会で活かすことが出来たから。
⑧	・ 航空券の手配の仕方をわかりやすくして欲しかったです。 ・ 天気が悪いからと甘えて怠けていたところがあったので家の中でも出来ることを探したり、部活でも時間を上手く作ったりと、もっと動いていたら良かったなと思いました。 ・ 競技規則は読み込んでおけば良かった。
⑨	・ 緊張すると思いますがたくさん走って頑張ってください。 ・ 行くまでは人見知りなのもあって不安なこともたくさんあったのですが、実際行ってみると想像していたよりも優しい人ばかりで良かったです。 ・ 自分のペースで緊張せずに頑張ってください。 ・ 競技規則をほとんど頭に入れといた方が良いです。

以上の結果より、ユース審判員一人ひとりの”現在地”が異なる点、また、本大会を経験し、その先にある自身の審判活動へ繋げていくため、様々なサポートが必要に感じる。審判に関わる部分では、競技規則の理解や1人制審判の理解とそのトレーニング、それを一定期間継続的にアプローチしていくこと。また、審判以外の部分では、移動に関するフォローアップ（状況に応じては保護者等との連携）などである。そして、本大会での審判員としての経験を北海道ユース審判研修等で後輩と共有することで、今回参加したユース審判員達の整理や自信に繋がるのみではなく、後輩達のモチベーションや目標に繋げていくこともできると感じる。

審判や大会参加に対する
疑問点や不安などの共有

①審判に対する**疑問・不安**

②審判以外での**疑問・不安**

③本日の講師へ聞きたい！**アドバイス**
(審判のこと／審判以外のこと)

④本大会での**チャレンジ！**

映像②

<https://drive.google.com/file/d/1eIMDsE5BKKQVibQJO8D7Z84ShikVAan/view?usp=sharing>

審判や大会参加に対する
疑問点や不安などの共有

①審判に対する**疑問・不安**

6 今大会の「審判」にあたり、不安や疑問を持つ...さい。(その他は記述式で記入してください)
3件の回答

項目	回答数	割合
競技規則の理解 (ルール、規則) 11人制、8人制、6人制、4人制、2人制、1人制、0人制、その他	2	66.7%
審判の動き・ポジション・サイン	1	33.3%
フィジカル (体力・走力など)	1	33.3%
判定 (ファウルをとれる？ノーフアウルとファウル、黄色、赤、メンタル (審判員としての立ち振る舞い、精神的安定) など)	2	66.7%
グリーンカードを出すタイミング	1	33.3%

ディスカッション項目

(黄色→ノーフアウル/エンジ→ファウル)と仮定して
※後半残り10分、0-0
※黄色#14はエースストライカー
※この事象の5分前からエンジのチーム全体のファウルが多くなってきた

(1) エンジ#8の意図は？
(2) レフェリーとして工夫したいことは？
(3) その目的は？
(4) その他

先輩からのアドバイス

4 その他、今年度参加する審判員に対して、「アドバイス」や「応援エール」をぜひお願いします。
2件の回答

・失敗を恐れず沢山チャレンジ！自信を持って！最大のパフォーマンスを！
・ここで出会う仲間はこれからの審判人生です！と付き合っていく仲間です！沢山作りましょう！
・審判をなぜやるのか、何を求められているのか、選手たちがどのようにプレーをしてくれることを望むかなど、沢山のことを考え、吸収する有意義な時間にしてきてください！
・楽しんでみてください！！

目の前の試合を臨み台にすることなく、まずは試合を無事に終えることを目標にして頑張ってください！

30人を超えるレフェリーの中で、自選スタジアムで審判を受けるのはたったの3人、全力でパフォーマンスをすれば必ず誰かが見てくれる。試合に選らばずピッチ外も見られている。常にアンテナをはって頑張ってください！

④応援エール

(写真1 北海道ユース審判員研修会スライド抜粋)

4【前日研修報告】－(資料番号③)

内容	備考
・挨拶	JFA審判委員長 扇谷 健司 氏 九州FA審判委員長 浜田 章治 氏 鹿児島FA審判委員長 萩原 貞明 氏 (進行：高橋武良 氏)
・大会に関する確認	・レギュレーション確認 ・セレモニー確認 ・会場、ADコントロール ・大会期間中スケジュール
・指導者研修	・指導者の役割 ・実践演習 ・担当／割り当て ・事務連絡
・担当ピッチ、審判員の確認	・審判員4名／Ins. 2名が基本グループ →補助審判の割り当ておよび調整
・担当ピッチ別打合せ	・審判員との顔合わせ

4. 1【前日研修報告詳細】

指導者研修での内容を共有する。前段として、2. 1【事前研修報告詳細】で記載した内容を確認した。また、審判員に求める姿(動き・Ps/競技規則適用/マネジメントなどの項目)として、ユース審判員ということから、大人の審判員に求めるものとは若干異なり、そ

の整理を行った。そして、試合の振り返りに関する留意点の説明、その目的を再認識できる講義をいただいた。

実践演習のセクションでは、インストラクター同士が審判員役とインストラクター役に分かれ、事前に提供されていた映像を用い、振り返りの演習を行った。重要なポイントは、「前半から後半に改善させられることとそのアプローチ」、「試合終了後から次の試合に向けて改善させられることとそのアプローチ」この2つの異なる時間軸の観点から実践演習を行い、「いつ、なにを、どのように伝えるのか」、インストラクターとして、その整理とコミュニケーション方法の工夫は重要であると感じた。それが、ユース審判員一人ひとりに応じた適切なものである必要があり、その積み重ねが、この大会を成功させる鍵であることの認識がなされた。



(写真 2 前日研修 扇谷氏からの挨拶の様子)

5 【競技（1次ラウンド～ラウンド16～フレンドリーカップ）インストラクター内容 および 研修会報告】－（資料番号④）

上記にも記載のとおり、ユース審判員4名に対して2名のインストラクターが付き、大会が進んでいく。私は競技1日目、および2日目で合計8試合を担当した。（※同グループインストラクターが大会を欠席したため担当試合数が増えた）そこでは、事前研修で学んだことを発揮し、目の前にいる審判員を改善させ、その試合にマッチできるように、「いつ、なにを、どのように」アドバイスをするかに集中し、インストラクターとしての役割を果たせたと感じている。

特に「ハーフタイムに伝える事項」、「試合終了後に伝える事項」に大別し、それを、審判員一人ひとりに応じて自分の引き出しを調整する…このことが重要かつ難しさを感じる部分である。ただし目的は明確で、「目の前の審判員を成長させること」、そして、「目の前の試合、そして、大会を成功へ導くこと」の2点であったように思う。

アドバイス方法に関しては、もちろんバーバルコミュニケーションを用いたレクチャーもあれば、時には、ピッチ横の狭い場所でのシャドートレーニングのようにノンバーバルコミュニケーションと組み合わせることも多くあった。

競技3日目には、フレンドリーカップが開催され、そこでの担当審判員をインストラクターが自由に選ぶことができたため、競技2日目まで、レフェリングを見ることができなかった北海道ユース審判員2名の担当をさせていただいた。上記のアドバイス方法以外では、当該チームの了承を得たのちに、実際の試合中においてシャドートレーニングを実践した。

「いつ、何を、どこで、どのように見て、判断し、アクションするか」を伝えた。やはり、バーバルコミュニケーションに加え、このシャドートレーニングをすることは効果的であることを実感できた。

北海道のユース審判員のみならず、今回担当させていただいた全国から集まったユース審判員全員が、伝えたアドバイスを即座に実践しようと試みている様子が見られ、その適応力の高さと成長幅が伺えた。逆に言えば、それだけインストラクターのスキルが求められるということである。



(写真3 左：ハーフタイムでのアドバイス様子 右：シャドートレーニング様子)



(写真4 フレンドリーカップにおける北海道ユース審判員の様子)

試合終了後のインストラクター研修では、以下の内容に関して共有が行われた。なお、4人1グループに分かれ、グループディスカッション形式で研修を実施した。

項目	備考（主に私の班についての記載）
試合分析	サッカーの4局面に応じた試合分析 チーム特徴などの共有
審判員分析	審判員の”現在地”の把握 →5つのファクターの分析 (競技規則の理解/フィジカル/マネジメント/メンタル/Ps)
効果的だったアプローチ内容	《改善点を審判員から聞き出す→効果的なアドバイス +チャレンジ内容の精査→フォローアップ→実践》 この流れを大切にすること
今後のIns. 活動に生かせる項目	Ins. としての力量（審判員一人ひとりに応じた、特徴の理解と改善点の精査、また、それを伝える能力）の

	向上を常に考えながら、地域で実践をし、周りのIns.と共有すること。
--	------------------------------------



(写真5 インストラクター研修の様子)

このインストラクター研修を通じて、未来有望なユース審判員の育成という重要な課題へのチャレンジを続ける必要性を感じた。それは、日本サッカーの発展に対して、重要なファクターがあるのが理由である。この大会を経験し、様々な全国研修へ繋げ、そして、地域の強化指定審判員から1級審判員そして、国際審判員として繋げるための一つの重要な経験となることは必然であり、本大会をより実りあるものにするためにはインストラクターのスキルが大きく関わっていることが再認識することができた。つまり、審判員の成長とともに、インストラクターの成長が一つの鍵となることである。



(写真6 試合終了後全体研修会の様子)

6 おわりに

今回本大会に地域インストラクターとして関わらせていただきまして、JFA審判委員会の方々をはじめ、九州FA審判委員会、鹿児島県FA審判委員会、大会運営の方々、そして、ご推薦していただきました、北海道FA審判委員会に感謝を申し上げます。



(写真7 本大会に参加したレフェリーチーム集合写真)